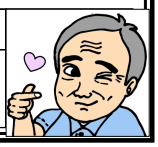
国語学習プリント　文学の楽しみは「異化」を探す旅とも言える。　date：　年　月　日

学習内容：**文学を学ぶ**　教科書の意図を知る

＿＿年＿＿組＿＿＿番

桜蝶

氏名



桜蝶　田丸雅智

A

白石さんが学校帰りに公園の前を通りかかると、同じクラスの倉橋君が一本の桜の木の前に立っていた。

「何やってるの？」

白石さんが尋ねると、倉橋君は振り返ってこう言った。

「桜蝶の旅立ちを見守ってて。」

そして、倉橋君はこんな話をし始めた。

「春が来ると南から北へ、桜の木に留まりながら旅をする蝶がいて。それが、桜蝶っていう蝶で。この蝶がやってくると桜が一斉に咲き始めるから、桜の開花を告げる蝶だとも言われててね。僕はここで偶然見つけて毎日観察してたんだけど、そろそろ次の目的地に向かって飛び立つ気配を見せてるんだ。」

その時、倉橋君が「あっ。」と叫んだ。それと同時に信じられないことが起こった。目の前の桜の木から一斉に花びらが散ったかと思うと、地面に落ちることもなく、そのまま宙を飛び始めたのだ。よく見ると、それは花びらのような羽を持った淡いピンクの蝶だった。

蝶は渦を巻きながら天高く昇っていく。夕空を、ピンクの靄が北に向かって移動していく。

その美しい光景に見惚れながらも、白石さんはこう呟いた。

「春とはもう、お別れなんだね……。」

なんだか寂しい思いにとらわれていると、倉橋君が口にした。

「そうだね。でも、ほら、見てみなよ。」

その指さす方――南の空に目をやって、白石さんは声をあげた。緑の靄が飛んできているのが見えたのだ。

倉橋君はほほえんだ。

「桜蝶はいなくなってしまうけど、今度は葉桜蝶が新しい季節を運んできてくれたみたいだね。」

B

「何やってるの？」

声をかけられ振り返ると、クラスメイトの白石さんが立っていた。

僕は言った。

「桜蝶の旅立ちを見守ってて。」

首をかしげる白石さんに、僕は桜蝶のことを教えてあげる。

僕が親の転勤でこの町にやってきたのは、春先のことだった。生まれ育った故郷を離れるのは寂しくて、特に友達との別れは本当につらかった。

そんな折、僕はこの公園で偶然にも桜蝶を見つけた。桜蝶――それは春が来ると南から北へと桜の木に留まりながら旅する蝶だ。この蝶がやってくると桜が一斉に咲き始めるので、桜の開花を告げる蝶だとも言われている……そう教えてくれたのは、故郷にいる親友だった。

僕は蝶を発見したその日から、公園へと毎日通った。そして、南の町から来た自分の境遇を桜蝶に重ねては、勝手に孤独を分け合ってきた。

けれど、そんな日々も、まもなく終わる――。

桜蝶が一斉に宙へと飛び上がったのは、次の瞬間のことだった。蝶はこれから旅立つのだ。さらに北の方へ向かって。

その時、飛んでいくピンクの靄を見つめながら、白石さんがポツリと言った。

「春とはもう、お別れなんだね……。」

それを聞いて、ハッとなった。僕の頭に別れぎわの親友の言葉がよみがえってきたからだ。

――別れは終わりなんかじゃない。始まりなんだよ――。

僕は白石さんにこう言った。

「そうだね。でも、ほら、見てみなよ。」

視線の先、南の空には緑の靄が浮かんでいる。

「桜蝶はいなくなってしまうけど、今度は葉桜蝶が新しい季節を運んできてくれたみたいだね。」

☆A・B二つの文章を比較する。

① どちらの文章を好みますか？

② A・Bそれぞれの特徴（違い）を考えてみよう

生徒は箇条書きでOK

A 客観的な立場で、時系列にそったできごとという事実を中心にえがいている。

・淡々としている

・順序通り　・伏線や疑問は薄い

・発した言葉の真の出所や理由は不明

・何がどうしたかわかりやすい

など

B 僕の視点から、僕の心情やイメージという主観をとおしたえがき方にしている。

・伏線の起因である桜蝶の件は実は親友から教えられたものである

・親友の別れ際の言葉が葉桜蝶の件を生み出してきた根拠だとわかる。回収される方向性を向く

・事象とイメージとの関連付けが感じられる

桜蝶＝桜前線←緑の靄・葉桜蝶＝葉桜前線　など

③ 思ったことを書いてみよう。

☆教科書P24を読んで「異化」についても学んでおこう。